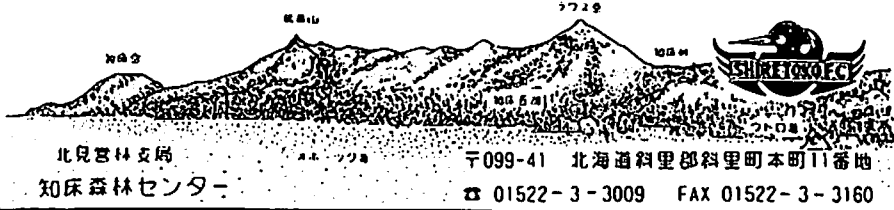


知床の森から



紅葉の森林をウォッチング

第11回「森林レク・in知床」

知床連山の紅葉も高山帯から徐々に低地へと降り始めた10月2・3日の両日、森林センター主催第11回「森林レク・in知床」を知床自然観察教育林で実施しました。平日の実施とあって主婦層を中心とした一行は、森林インストラクターに引率され背丈ほどのクマイ箆を掻き分け、緑色の針葉樹林、鮮やかな紅葉や黄色に染まった広葉樹林を潜り抜け、目的地の「霧の滝」まで紅葉ウォッチングを楽しみました。途中、うっそうとした森林内に突然ポツカリ開けたポンホロ沼では、「日常生活の慌ただしい



【教育観察林内を歩く参加者たち】

中に、予期せぬ休息の時間が突然おとづれたよう！」などと主婦ならではの感想も聞かれました。観察林の各ポイントでは、森林の役割や国民一人当たりが1年間に使用する木材の量、そして森林浴がなぜ体に良いのか！などの説明を受け、あらためて森林の重要性について再認識した様子でした。往復4kmの行程を無事走破した参加者から、慌ただしい日々が続く主婦にとって「普段蓄積されたストレスを、この知床の森林が緩和し解消してくれた！」、また「健康的で最高！何kg痩せたかしら！」などの感想が寄せられており、有意義な一日を過ごしていただきました。

イベント・マニュアル

業務研究発表会で受賞！

平成3年度、国有林野事業業務研究発表会が林野庁で開催されました。

発表は技術研究部会と業務改善部会に分れ、北見宮林支局からは各部会に一課題づつ発表しましたが、業務改善部会で知床森林センター村上技術専門官が、森林センター設立以来11回のイベント実施経験をもとに「森林レクの企画と運営について」と題して発表し、スリーエム協会会長賞を受賞しました。

今回の発表は、イベントの実施にあたり「企画から運営」にいたるまでの手順をマニュアルとしてまとめたものであり、初めて森林教室などイベントを企画担当する人々にも、迷うことなく目的に添ったイベントの実施ができるよう項目別に整理し、即実践可能にまとめたものです。国有林PRを目的とした各種イベントは、今後ますます各層で増続けることが予測されており、この「イベント・マニュアル」の活用で効率的に実施運営できるものと、各方面から期待が寄せられています。

シリーズ知床八景 ㊦ 知床峠



知床半島のほぼ中央部を横断し、斜里・ラウス間を結ぶ国道334号線の峠が「知床峠」です。半島の主峰ラウス岳の眼下にある標高738mのこの峠からは、オホーツク海の展望、ラウス岳の勇姿と山麓に広がる大樹海、そして根室海峡を隔てた国後島を望むことができ、シーズンには多くの観光客で賑わいを見せています。



【知床峠から望む国後島】

シーズンオフに近づいた峠では、時おり訪れる観光客が冷たい北風に悲鳴をあげながら記念写真を撮り終えると、襟元をおさえながら足速に通り去って行きます。

多彩な色で飾られていたラウス岳山麓も今は色あせ、タケカンバの黄褐色に変色した葉が散る頃、知床峠は通行止めとなり長い冬の眠りに入ります。



知床は「今！」

全国的に不順な天候はここ知床にも及んでいます。森林センターの窓から一望できる知床連山は、その壮大な山容を暫く見せてくれません。そんな日々が続いていた10月16日、突然雲の切れ間にその姿を現した知床連山は、白く雪化粧し舞台を冬景色に変えていました。

厳しい冬がくるまでのわずかな期間、陸では動物たちがせつせと脂肪を蓄え、河では鱒が河床を黒く埋めつくす程大群となって遡上し産卵しています。自然と動物が知床に冬かきを告げています。



【雪化粧した知床の連山】



産業祭りで 国有林を紹介！

毎年、地元の特産品をPRすると共に、安価で提供し、町の産業振興を図ることを目的とした「しれとこ産菜まつり」が去る10月6日開催されました。

今年も、知床森林センターと洞里営林署合同で、航空写真、年輪あてクイズ、丸太切りコーナーを出展した他、キノコの標本展示、また、「自分で作る習ひ」のテーマの下、職員力作による「押し花の使い方いろいろ」や「木蝶の作り方」紹介コーナーも設け、知床国有林の紹介と共に「森林と楽しむ」ことの啓蒙普及に努めました。キノコの標本コーナーは、最も身近なことから切れ目なく人が訪れ、



【国有林の紹介コーナー】

「これ毒キノコ？」「アツこれ食べられるの！」などと職員に尋ねていました。押し花の使い方コーナーや木蝶の作り方コーナーでは「こんな使い方ができるのね」「これ手作り？」などの感嘆の声が聞かれました。

また、昨年、好評であった丸太切りコーナーは、今年も子供連に人気が高く、思い思いの形に切り取り、ドリルで穴をあけて、「壁かけにするんだ！」「ペン立てにする」など、使い方に思いをはせ、自分で作ったことへの満足感にひたっていました。